

第6章 関連文化財群

1. 関連文化財群の設定

高槻市の歴史文化の特徴を踏まえ、指定・未指定にかかわらず、旧町村等本市の成り立ちを基としたゾーン区分を踏まえつつ、地理的・歴史的・空間的関係性を考慮し、一定のまとまりをもって存在する様々な文化財を8つの「関連文化財群」として設定します。特定のテーマやストーリーの下で関連性のある文化財を一体として捉えることで市民にその魅力や価値をわかりやすく示し、総合的な保存と活用を進めていきます。また、本市の豊かな歴史性を広く情報発信するツールとし、市民の誇りや愛着の源泉ともなる価値を次世代へと大切に伝えていきます。

各関連文化財群においては、以下のような相互のつながりを形成しながらその魅力を発信します。

区分I ～歴史文化の発信・交流の「軸」 歴史回廊～

現在の市の玄関口である中心市街地を核として、文化財の保存と活用を両立した取組を空間的に結ぶ軸を「戦国ロード」、「ハニワ街道」、「弥生ストリート」と名付け、全体を「歴史回廊」と位置付けて、人々の回遊や交流を促進するとともに、歴史文化の魅力やストーリーをより広く発信していきます。

具体的には、これまでの史跡整備で歴史・交流拠点としてきた今城塚古墳と安満遺跡を結ぶ東西軸を中心市街地から西は「ハニワ街道」、東は「弥生ストリート」とします。そして今後は中心市街地を通る南北軸「戦国ロード」を設定し、北の芥川山城と南の高槻城下町でそれぞれ保存と活用を両立した取組を推進することで、更なる歴史文化の発信と魅力の創出を図ります。

区分II ～「軸」を彩り、地域の生業・文化を伝える関連文化財群～

市内には、酒造りで栄えた富田や、物流の大動脈たる淀川、都と西国各地とを結んだ西国街道、古くから靈場が開かれ信仰の拠点となった北摂山地、日本の近代化や学問の発展の場となった近代建築等、各地域の特性や時代背景の特徴を顕著にあらわす文化資源・文化財のまとまりが存在します。

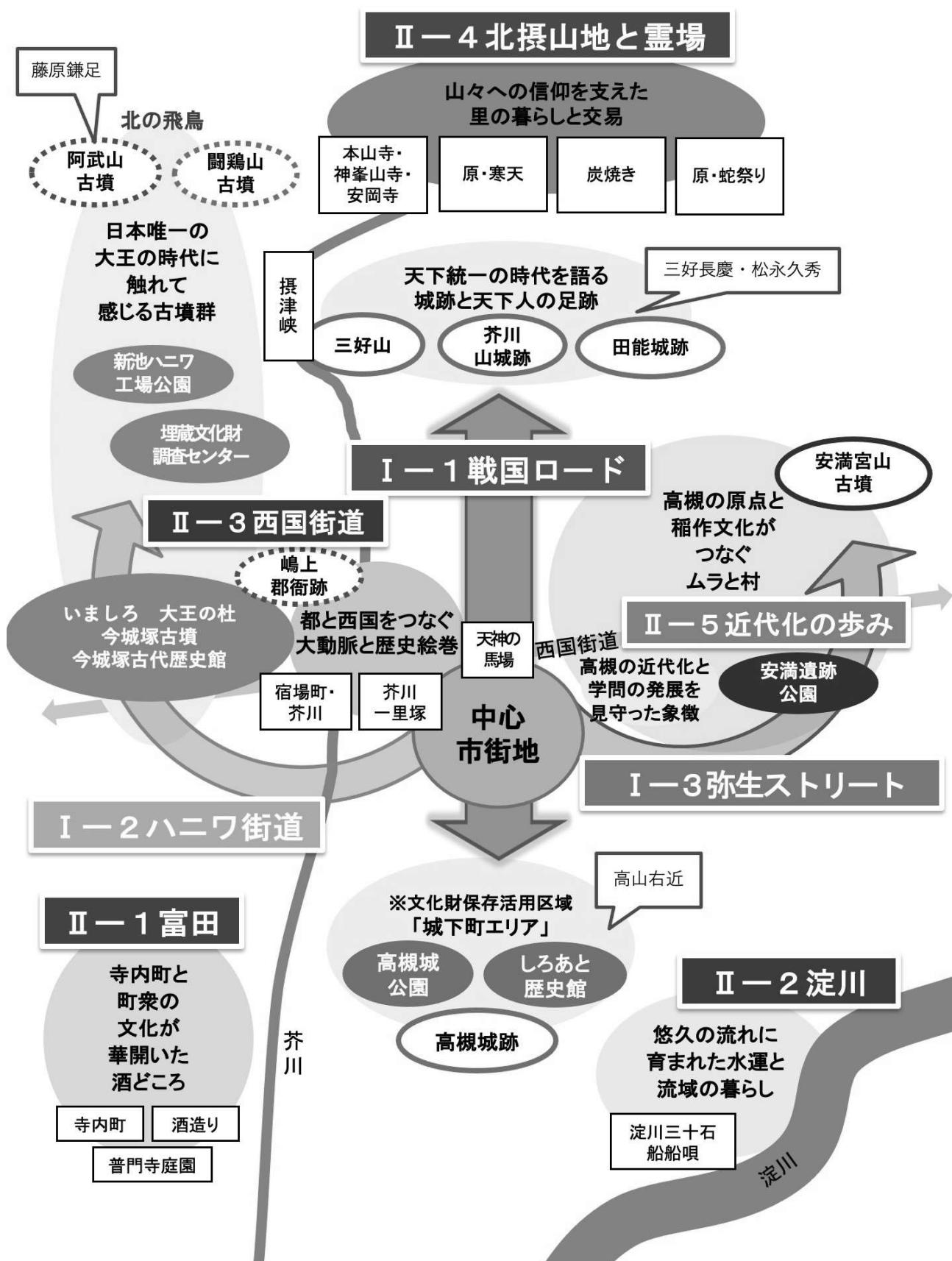
これらのまとまりについて、その成り立ちを紐解くことで、各時代における人々の生業や交流から生まれた文化の積み重ねが各地域の特性へとつながっていることの理解が深まり、地域の魅力への気づきや、愛着・誇りの源泉となることが期待されます。

そこで、本市の歴史文化の発信・交流の軸となる「歴史回廊」を豊かに彩り、人々の生活や地域特性、各時代の特徴をあらわすまとまりとして、富田・淀川・西国街道・北摂山地と靈場・近代化の歩みの5つを歴史文化のテーマとして設定し、その価値の保存や継承の輪を広げていきます。

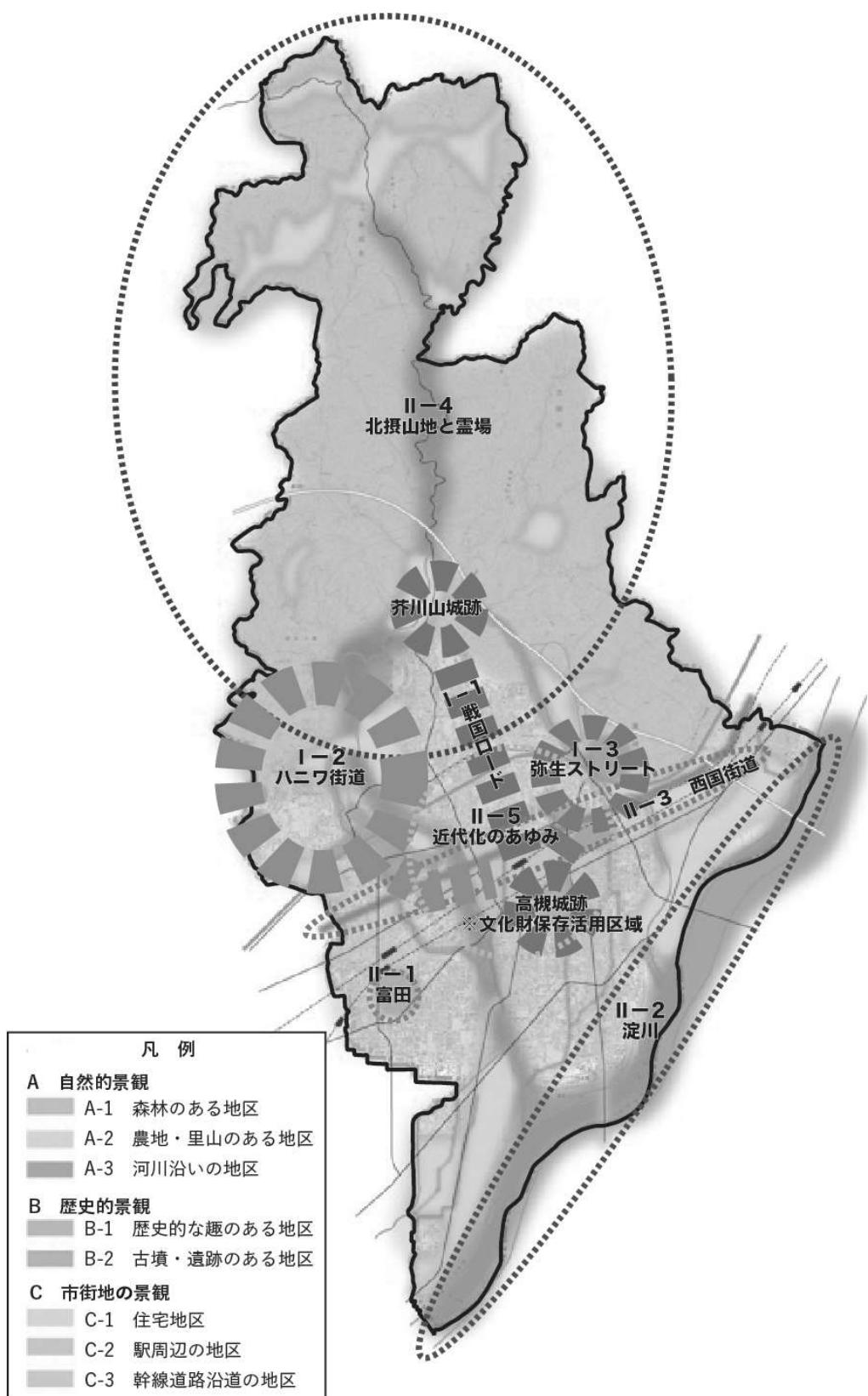
<本計画で設定する関連文化財群一覧>

区分	関連文化財群
I 歴史回廊でつながる 関連文化財群	I-1 戦国ロード 天下統一の時代を語る城跡と天下人の足跡 ※文化財保存活用区域の城下町エリアを含む（第7章）
	I-2 ハニワ街道 日本唯一の大王の時代に触れて感じる古墳群
	I-3 弥生ストリート 高槻の原点と稻作文化がつなぐムラと村
II 地域の特性につながる 生業・文化を伝える 関連文化財群	II-1 富田 寺内町と町衆の文化が花開いた酒どころ
	II-2 淀川 悠久の流れに育まれた水運と流域の暮らし
	II-3 西国街道 都と西国をつなぐ大動脈と歴史絵巻
	II-4 北摂山地と靈場 山々への信仰を支えた里の暮らしと交易
	II-5 近代化の歩み 高槻の近代化と学問の発展を見守った象徴

<関連文化財群のイメージ>



<参考 関連文化財群と本市の景観類型>



8つの「関連文化財群」は、歴史的な関係性のみならず、地理的・空間的関係性から一定のまとまりを形成しており、景観のまとまりとも密接に関わっています。そのため、本市の景観政策の方向性を示す「高槻市景観基本計画」における景観類型の位置や規模・景観特性等を示す図をベースとし、ここでは市域における関連文化財群の位置を示しています。

2. 区分Ⅰ 歴史回廊でつながる関連文化財群

I-1 戦国ロード

市域を南北に貫く「戦国ロード」では、動乱の戦国時代から天下泰平の江戸時代へと時代が動く舞台となった、芥川山城と高槻城という2つの城郭を核とした魅力があります。

2つの城郭が担ってきた、戦いの拠点としての機能に加え、各地との交流・交易等の政治経済拠点機能、城下の人々の暮らしや生活様式、文化的発展の拠点としての機能にも注目し、京都・大坂といった大都市とも盛んに交流した「天下の副都心」とも言える役割や日本史上での特徴があります。

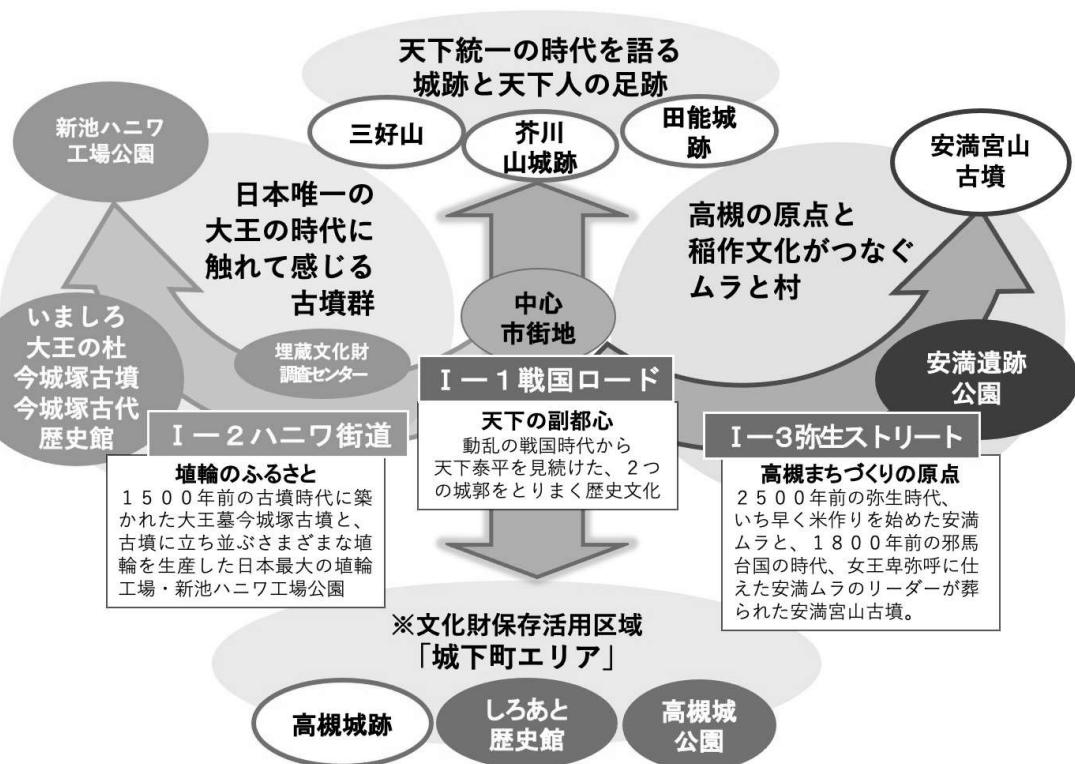
I-2 ハニワ街道

中心市街地から西に伸びる「ハニワ街道」では、1,500年前の古墳時代に築かれた継体大王墓・今城塚古墳と、そこに立ち並ぶ様々な埴輪を生産した日本最大級の埴輪工場・新池ハニワ工場公園を核として、大小さまざまな古墳が築造されました。日本で唯一、墳丘に立ち入ることのできる大王墓・今城塚古墳と充実した博物館体験を通して大王を頂点とする古墳時代の縮図とも言われる三島古墳群を体感することができます。

I-3 弥生ストリート

中心市街地から東に伸びる「弥生ストリート」では、2,500年前の弥生時代に、いち早く米作りを始めた安満ムラと、1,800年前の邪馬台国の時代、女王卑弥呼に仕えた安満ムラのリーダーが葬られた安満宮山古墳を、安満の鎮守・磐手社神社に伝わる豊かな実りを願う祭礼などとも有機的につなぎ、「高槻まちづくりの原点」としての稲作文化と当時の生活を物語ります。

<歴史回廊のイメージ>



3. 区分Ⅱ 地域の特性につながる生業・文化を伝える関連文化財群

II-1 富田

蓮如の布教を端緒に寺内町として成立し、のちに酒造業を中心には在郷町として発展した富田では、著名な学者や漢詩人が逗留し、酒造家の一族から漢詩人の入江若水^{いりえ わくすい}や書家の藤田友閑^{ふじた ゆうかん}ら文化人が輩出するなど、町衆の文化活動が花開きました。地域に残る社寺や町並みとともに、室町時代から江戸時代にかけての町衆の繁栄を知ることができます。

II-2 淀川

淀川を行き交う荷船の河港として賑わった唐崎浜、京都と大坂を結ぶ旅客船・三十石船が発着した前島浜や三島江浜、三十石船の乗客に飲食物を商った「くらわんか舟」の拠点・柱本等が、物流を基軸に地域の発展に寄与しました。治水の努力が偲ばれる土木遺構も残されています。特に近世の政治・経済・文化が発展する上での基盤として、淀川水運を支え続けた流域の暮らしや技術等がうかがえます。

II-3 西国街道

宮都と九州大宰府を結ぶ古代山陽道以来、都と西国をつなぐ大動脈・西国街道を、幾多の人・モノ・情報が行き交いました。奈良・平安時代には遠国へ赴任する都人が牛車に揺られ、戦国時代には軍勢が行き交い、江戸時代には参勤交代の大名や旅人が往来を重ねる等、各時代の時代背景に応じた形で、人々の交流が生まれ、その足跡が各所に残されています。

II-4 北摂山地と靈場

北部山間では、平安時代に修験道の興隆に伴い山岳寺院が開かれ、宗教美術や祭礼等が発展しました。現在多くの人々から信仰を集め、遠方からの参詣者が絶えません。また、山里の風土を活かした寒天や木炭などの特産物が生産され、京都や大坂、時に外国との交易が行われてきました。山間部であるからこそ発展した独自の文化や民俗、産業のあり様を体感できます。

II-5 近代化の歩み

「近代化の歩み」では、本市が発展する礎となった鉄道等の土木遺産や、京都大学高槻農場（現在の安満遺跡公園）、大阪高等医学専門学校（現在の大阪医科大学）等の近代建築等があります。これらの土木遺産や近代建築は、本市の近代化と学問の発展を見守ってきた象徴として次世代へとその歴史的背景を伝えていくものです。



ポンポン山から見た市街地方面

4. 関連文化財群のストーリーと保存と活用に関する課題・方針・措置

本項では、8つの関連文化財群について、それぞれのストーリーと構成する主な文化資源等について位置付けるとともに、文化財の保存と活用に関する市全体の方針に基づき、各関連文化財群での保存・活用について、本計画期間内の短期(1~2年)・中期(5年)・長期(10年)の措置を定めます。

本項で位置付ける8つの関連文化財群での保存・活用の措置を推進することにより、歴史文化の発信・交流の軸を成す“歴史回廊”と、その軸を地域特性により彩る“生業・文化群”的イメージやまとまりを形づくっていきます。特に、文化資源の保存と活用を両立した取組を空間的に結ぶ軸「歴史回廊」の形成を実現することにより、交流や地域の活性化、文化資源・文化財に関する認知の広がりや、市民の誇りや愛着へつなげていきます。

<各関連文化財の保存・活用に関する措置の表の見方>

- ・第5章で位置付けている市全体の措置については、各関連文化財群においても計画期間内に推進しますが、各関連文化財群の保存・活用の措置の頁には記載していません。
- ・各関連文化群の保存・活用の措置の事業番号は、関連文化財群の番号と、各関連文化財群の保存・活用の措置の通し番号で構成されています。

【保存・活用の措置の表の例】

●保存・活用に関する措置

方針1 文化財を掘り起こす

<具体的な措置> 取組主体の凡例…●中心となって取組む ○協力して取組む

事業番号	措置一覧番号	事業名	事業内容	取組主体			事業の位置	事業期間		
				市民	企業	市		短期	中期	長期(10年)
①継続した調査・研究										
I-1-1	3)	む文化財調査	置き、ゾー る建造物や民俗文化 財、美術工芸品(絵 画・彫刻等)の調査を 拡充する。	○	●	●	●	●	●	●
卷末 参考1(p120～127)の 措置一覧の番号を記載										
●中心となって取り組む ○協力して取り組む										
事業番号	措置一覧番号	事業名	事業内容	取組主体			事業の位置	事業期間		
				市民 団体	企業	市	短期 (1~2年)	中期 (5年)	長期 (10年)	
① 指定・登録等										
I-1-2	7)	芥川山城跡 久的な保存と 用に向けた取組	指針となる、保存活用 計画を策定する。							
②適切な保存・公開										
I-1-3	12)	しろあと歴史館 の保存・公開環 境の改善	収蔵室や展示室等を 改善し、登録博物館・ 国指定文化財の公開							

I－1 戦国ロード 天下統一の時代を語る城跡と天下人の足跡

i) 関連文化財群のストーリー

高槻には、敵襲に備えた城塞として地形を生かして築かれた戦国時代の山城・芥川山城と、安土桃山時代から江戸時代にかけて領内統治のため戦略的な重要地に築かれた平城・高槻城といった、天下統一の時代を象徴する城郭が存在します。

摂津峠の一画を占める芥川山城は、最初の天下人・三好長慶の政治・文化の舞台となり、高槻の五百住出身とされる松永久秀らが在城しました。次いで、新たな天下人となる織田信長は、まずこの城を攻め落としてから上洛する等、山城への同時代人の認識や動乱の様子がうかがえます。

信長から高槻地域の支配を任せられた和田惟政は、芥川山城から高槻城へと居城を移しました。やがて和田氏を追放して高槻城主となったキリスト教大名の高山飛騨守・右近父子によって高槻城下町建設が本格化します。発掘調査ではフロイス著『日本史』の記述を裏付ける発見も得られています。

その後、豊臣秀吉は、天神の馬場から出陣した山崎の合戦で勝利を収め天下人となり、自らの本拠である京と大坂を結ぶ要衝である高槻を直轄地とします。大坂の陣で豊臣家を滅ぼした徳川幕府は、高槻城を西国支配の重要な拠点の一つとして大改修しました。

高槻城と城下町の成り立ちから、天下人の足跡と、天下統一の進行と共に、城郭の役割が領内統治の中心へと移った時代の道筋を見て取れるこの空間的なまとまりを「戦国ロード」として位置づけます。

ii) 構成する文化資源

●文化財

指定等文化財	未指定の文化財など
【国登録】 横山家住宅	しろあと歴史館及び収蔵品(古文書及び美術工芸品) 高槻市立歴史民俗資料館及び収蔵品 芥川山城跡及び出土資料
【府指定】 多臂觀世音菩薩立像（廣智寺） 高槻城跡 高山右近高槻天主教会堂跡 摂津峠	芥川山城跡に隣接する帶仕山向城跡 街道の結節点を押さえる中世山城の田能城跡 靈松寺の境内、諸堂 山崎の合戦で秀吉が本陣を置いたと伝える天神の馬場跡 廣智寺の参道、境内、諸堂 全国2番目に古い天満宮・上宮天満宮の参道、境内 高槻城公園
【市指定】 旧笛井家住宅 永井神社社殿附棟札4枚・高槻城絵馬1面 永井神社唐門 永井神社伝来永井直清関連資料 三好長慶水論裁決状及び三好家奉行衆連判裁許 井手絵図 葉間家文書 高槻村文禄検地帳 高槻村元和検地帳	高槻カトリック教会の高山右近記念聖堂、右近像 城下町の町割り・旧町名 高槻城三の丸跡の野見神社・永井神社の境内、社殿 正門にあたる高槻城東大手跡 寺院(寺町)や建造物 城下と西国街道をむすぶ八丁松原 幕末の漢詩人、高槻藩士藤井竹外邸跡 八幡大神宮の境内、社殿 高槻藩が設立した藩校・菁莪堂跡 京口ほか道標類 近世高槻城の出土品(桐木、井戸枠、建築部材、漆椀や陶磁器等の食器、木簡、将棋駒を含む遊戯具他) 中世高槻城の出土品(キリスト教墓他) 高槻城下層遺跡の出土品(井戸枠、貨幣他)

※現時点で該当するものを記載しています。今後追加していく可能性があります。

●文化財公開等拠点施設

しろあと歴史館、歴史民俗資料館

<構成文化資源の位置>

地図上の文化財に所在するもの
<芥川山城跡> 城郭遺構:曲輪、堀、石垣、建物跡他
<上宮天満宮> 【国重美】石造灯籠
<廣智寺> 【府有形】多臂觀世音菩薩立像
<永井神社> 【市有形】社殿 附棟札 4枚 ・高槻城絵馬 1面 〃 唐門 〃 永井神社伝来 〃 永井直清関連資料
<しろあと歴史館> 収蔵する古文書及び美術工芸品

- …主な文化財
- …文化財公開等拠点施設



旧笹井家住宅(歴史民俗資料館)



JR 高槻駅前から見た天神の馬場



高槻城公園の高山右近像



城下「六口」の一つ・京口に残る道標



高槻カトリック教会

iii) 保存・活用の課題・方針・措置

●保存・活用の課題

芥川山城は、全域が私有地であるため、恒久的な遺構保存を図れていおらず、山城へのアクセスルートや安全対策も確保されていません。また、サインや歴史的なガイダンス等がなく、便益施設も不十分な状況です。

高槻城下町では、高槻城公園の整備と高槻城二の丸跡での芸術文化劇場の整備を行っており、整備後の集客と、周辺の活性化への波及が期待されます。地域住民や文化財等の所有者をはじめ、観光・商業等事業者や、公共施設の管理者等、多様な関係者の連携と活性化への合意形成が必要です。現在は、高槻城下町に往時をしのばせる町家が点在していますが、空間としての連続性や統一感が希薄な箇所もみられ、今後は城下町らしい空間形成と、残っている町家の保存・活用が望まれます。

高槻城公園等整備後の波及効果を得るためには、周辺の回遊性が大切です。現状では城下町の歴史と文化を学べ、楽しめる観光コンテンツ等は十分ではありません。城下町関連文化財の収蔵・展示施設であるしろあと歴史館は、開館以来約20年が経過して設備の老朽化が進み、適切な展示・保存環境の維持と、歴史文化を活かした観光を推進する施設としての機能向上が課題となっています。

●取組方針

芥川山城については、公有化を視野に入れ、価値を明らかにするための調査を推進します。将来的な史跡指定後は、地域住民の意見をふまえた保存活用計画を策定し、総合的な保存・活用を推進していきます。また、戦国武将の三好長慶や松永久秀、城郭という人気の高い歴史コンテンツを利用したプロモーションを開発するとともに、便益施設等の周辺環境のあり方や、ルート形成等摂津峡公園との連携等を検討し、見学・観光等での活用を展開していきます。

高槻城下町については、高槻城公園及び芸術文化劇場（令和5(2023)年3月オープン予定）の建設を端緒に、文化財の保存と活用を風格ある都市形成と観光振興へ誘導するエリア（文化財保存活用区域）に設定し、施設整備と観光コンテンツの充実、エリア全体での連続性・統一感のある城下町らしい景観形成との相乗効果により、歴史文化を活かした集客の中核を担う拠点としての役割を担っていきます。

そして本計画期間以降も見据えて各種公共施設整備や景観誘導、地域住民や観光・商業等事業者等と連携した取組を戦略的長期的に展開することにより、本市全体のイメージ向上を牽引し、人々の回遊や交流を促進するとともに、歴史文化の魅力やストーリーをより広く発信する「戦国ロード」としての認知や集客・発信力を發揮していきます。

●保存・活用に関する措置

方針1 文化財を掘り起こす

<具体的な措置> 取組主体の凡例…●中心となって取組む ○協力して取組む

措置一覧番号…参考資料1 保存と活用に関する措置 (p120~127) の表番号との対応

事業番号	措置一覧番号	事業名	事業内容	取組主体			事業の位置づけ	事業期間		
				市民団体	企業	市		短期(1~2年)	中期(5年)	長期(10年)
①継続した調査・研究										
I-1-1	3)	重点的に取り組む文化財調査	高櫻城下町を念頭に置き、ゾーンⅡにおける建造物、民俗文化財、美術工芸品(絵画・彫刻等)の調査を拡充する。	○	●		拡充			

方針2 文化資源を大切に守る

<具体的な措置> 取組主体の凡例…●中心となって取組む ○協力して取組む

措置一覧番号…参考資料1 保存と活用に関する措置 (p120~127) の表番号との対応

事業番号	措置一覧番号	事業名	事業内容	取組主体			事業の位置づけ	事業期間		
				市民団体	企業	市		短期(1~2年)	中期(5年)	長期(10年)
① 指定・登録等										
I-1-2	7)	芥川山城跡の恒久的な保存と活用に向けた取組	芥川山城の恒久保存と活用を推進するため、展覧会や講演会を開催する。 以後の保存・活用の指針となる、保存活用計画を策定する。	○	●		継続			

②適切な保存・公開

I-1-3	12)	しろあと歴史館の保存・公開環境の改善	収蔵室や展示室等を改善し、登録博物館・国指定文化財の公開承認施設として必須の保存・公開環境を適切に確保し、観光ニーズ等に合わせた機能の拡充を進める。	●	●		拡充			
I-1-4	13)	歴史民俗資料館の適切な保存管理	市指定文化財である歴史民俗資料館(旧笹井家住宅)の適切な保存・公開環境を確保する。		●		継続			

方針3 文化資源を地域に活かす

<具体的な措置> 取組主体の凡例…●中心となって取組む ○協力して取組む

措置一覧番号…参考資料1 保存と活用に関する措置 (p120~127) の表番号との対応

事業番号	措置一覧番号	事業名	事業内容	取組主体			事業の位置づけ	事業期間		
				市民団体	企業	市		短期(1~2年)	中期(5年)	長期(10年)
④他地域との連携										
I-1-5	38)	連携自治体との旅行プログラムの作成	連携自治体との旅行プログラムの作成を推進する。		○	●	拡充			
I-1-6	39)	文化財を核とした広域連携活動への参加	講演会や歴史ウォーク等、文化財の魅力発信に向けた広域連携活動への参加を推進する。	○	○	●	継続			
⑤歴史を活かしたまちなみ形成										
I-1-7	40)	歴史的建造物の保存・活用	城下町に由来する歴史的建造物の保存・活用を促進する。	●	●	○	新規			
I-1-8	41)	町家などの文化資源の調査・情報発信	市民団体や地域住民による文化資源の調査を基にした情報発信等を促進する。	●	○	○	継続			
I-1-9	42)	城下町らしいまちなみ景観への誘導	城下町の風情ある歴史的なまちなみの形成に向けて、建築物や屋外広告物の形態等に係る規制・誘導について検討する。	○		●	新規			
I-1-10	43)	城下町らしい公共施設デザイン指針の作成	高槻城下町に所在する道路などの公共施設について、城下町らしい景観を誘導するデザイン指針を作成する。	○	○	●	新規			
I-1-11	44)	高槻城公園へのアクセスルートの整備	鉄道駅から高槻城公園までのアクセスルートの整備を実施する。			●	新規			
I-1-12	45)	城下町らしい案内サインの再整備	城下町エリア内の案内サインや周遊サイン等を整理し、再整備を実施する。	○	○	●	新規			

事業番号	措置一覧番号	事業名	事業内容	取組主体			事業の位置づけ	事業期間		
				市民・団体	企業	市		短期(1~2年)	中期(5年)	長期(10年)
⑥歴史を活かした観光機能強化										
I-1-13	53)	しろあと歴史館の歴史・観光拠点化	しろあと歴史館の展示内容をニーズに応じて変更し、城下町エリアにおける歴史・観光の拠点と位置付ける。			●	新規			
I-1-14	54)	高櫻城公園の整備	高櫻城公園周辺一帯をかつての城下町を感じる姿に再生する。整備にあたっては櫓を復元するとともに、将来的な天守の復元に向けた検討を行う。			●	継続			
I-1-15	55)	芸術文化劇場の整備	芸術文化劇場の整備と、文化財に因んだ公演等を実施するとともに、施設利用者を各種ソフト事業等との連携により周辺エリアへの回遊へと誘導する。			●	新規			

I-2ハニワ街道

日本唯一の大王の時代に触れて感じる古墳群

i) 関連文化財群のストーリー

6世紀前半に築かれた史跡今城塚古墳は、二重の濠を備えた淀川流域最大の前方後円墳で、真の継体大王墓といわれています。発掘調査では、墳丘の内部構造や横穴式石室の採用、数千本に及ぶ埴輪列の存在が判明するとともに、家・大刀・盾・人物・動物など200点を超える様々なハニワが並ぶ日本最大の埴輪祭祀場がみつかりました。それらのハニワは、近隣にある日本最大の埴輪工場・新池埴輪窯から供給されたものです。

今城塚古墳公園は、二重濠を復元し埴輪祭祀場を再現した、日本で唯一、自由に入れる大王墓です。古墳に立ち埴輪に触れて大王墓の威容を体感し、併設する今城塚古代歴史館で大王墓の実体や三島の古墳時代の様子を、出土品などを通して深く知ることができます。

今城塚古墳周辺には、全国でも稀な未盗掘の史跡闘鷄山古墳や、藤原鎌足墓とされる史跡阿武山古墳をはじめ、大小様々な古墳が展開しています。それらは大和に王権が誕生し、巨大古墳を生んだ大王の時代から律令国家へ向かう飛鳥時代まで、約400年間の歴史の動きを見事に伝えており、古代の人々の足跡が感じられる空間的なまとまり「ハニワ街道」として位置づけるものです。

ii) 構成する文化資源

●文化財

指定文化財	未指定の文化財など
【国指定】 闘鷄山古墳 今城塚古墳 附新池埴輪製作遺跡 阿武山古墳 【国史跡】 新池ハニワ工場館の18号埴輪窯	今城塚古墳、新池遺跡の埴輪などの出土品（古代歴史館保管） 三島最初の大型首長墳・岡本山古墳 王墓の系譜を示す・弁天山古墳 郡家車塚古墳と埴輪・鏡などの出土品（古代歴史館保管） 前塚古墳と出土埴輪（古代歴史館保管）、石棺（大阪府保管） 番山古墳と出土埴輪（古代歴史館保管） 塚原古墳群とその出土品（古代歴史館保管） 昼神車塚古墳と狩獵埴輪群（古代歴史館保管） 塚脇古墳群と出土品（一部の石室を埋文センターに移築） 塚穴古墳群と石棺、出土品（一部の石室を近隣に移築）
【府指定】 石塚古墳四靈三瑞鏡（今城塚古代歴史館保管）	

※現時点で該当するものを記載しています。今後追加していく可能性があります。

●文化財公開等拠点施設

今城塚古代歴史館、新池ハニワ工場館、埋蔵文化財調査センター



「いましろ 大王の杜」史跡今城塚古墳と今城塚古代歴史館

<構成文化資源の位置>



iii) 保存・活用の課題・方針・措置

●保存・活用の課題

今城塚古墳をはじめ、市内には約450基以上の古墳が分布していますが、相互に距離があり面的に古墳の価値を楽しめる仕掛け・コンテンツは十分ではありません。

また、今城塚古墳については公園として整備されているため、市民による多様な利用ニーズがありますが、シーンに対応したルールづくりが必要となっています。

今城塚古代歴史館・新池ハニワ工場公園は、市民が古墳や古墳時代の歴史文化の魅力に触れることのできる拠点ともなっていますが、老朽化等も見られ、施設更新が必要です。

闘鶏山古墳では保存と活用に向け、調査手法の確立と発掘調査の実施が必要となっているほか、弁天山古墳群(岡本山古墳等)や周辺の古墳群の保存と指定に向けた取組が必要です。

●取組方針

今城塚古墳の活用(イベント・ユニークベニュー等)を通じ、全国にその価値と魅力を発信していきます。同時に、これまでも市民によって展開されてきた、ハニワ・古墳をモチーフとした物販やメディア制作等を通じた楽しみ方の発信等を促進していきます。

今城塚古墳においては、市民の利用シーンに対応したルールづくり等に取り組み、周辺環境と整合した市民による文化財の活用を促進していきます。

今城塚古代歴史館及び新池ハニワ工場公園については、展示及び設備のリニューアルとまち歩きの拠点化を計画的に進めます。

闘鶏山古墳については、未盗掘古墳の本質的価値を保存・活用するため、調査に着手していきます。

これらの取組を通じて、「埴輪のふるさと」とも言われる本市の古墳のネットワークや古代の人々の足跡を感じられる空間的なまとまり「ハニワ街道」を形成し、人々の回遊や交流を促進していきます。

●保存・活用に関する措置

方針2 文化資源を大切に守る

<具体的な措置> 取組主体の凡例…●中心となって取組む ○協力して取組む

措置一覧番号…参考資料1 保存と活用に関する措置(p120~127)の表番号との対応

事業番号	措置一覧番号	事業名	事業内容	取組主体			事業の位置づけ	事業期間		
				市民団体	企業	市		短期(1~2年)	中期(5年)	長期(10年)
①指定・登録等										
I-2-1	8)	今城塚古墳の調査成果の取りまとめ	今城塚古墳の発掘調査報告書の刊行作業を進め、出土遺物の価値を明らかにするための調査を進める。	○		●	継続	→		
I-2-2	10)	三島古墳群の調査研究	三島古墳群の保存と活用を進めるため、構成文化財について調査研究を進める。	○		●	新規	→		

事業番号	措置一覧番号	事業名	事業内容	取組主体			事業の位置づけ	事業期間		
				市民・団体	企業	市		短期(1~2年)	中期(5年)	長期(10年)
②適切な保存・公開										
I-2-3	14)	史跡公園等の管理ルールの設定、適用、及び一體的な維持管理	今城塚古墳公園等の管理根拠を整理し、文化財課所管の公有地との一體的な維持管理を行う。	○	●		継続	→		
I-2-4	15)	今城塚古代歴史館の保存・公開環境の改善	収蔵庫や展示室等の保存・公開環境を適切に確保し、観光ニーズ等に合わせた機能の拡充を進める。		●		継続	→		
I-2-5	16)	ハニワ工場公園の適切な保存管理	文化財公開施設であるハニワ工場公園の適切な保存・公開環境を確保する。		●		継続	→		

方針3 文化資源を地域に活かす

<具体的な措置> 取組主体の凡例…●中心となって取組む ○協力して取組む

措置一覧番号…参考資料1 保存と活用に関する措置(p120~127)の表番号との対応

事業番号	措置一覧番号	事業名	事業内容	取組主体			事業の位置づけ	事業期間		
				市民・団体	企業	市		短期(1~2年)	中期(5年)	長期(10年)
②価値や魅力の発信										
I-2-6	33)	史跡闘鶏山古墳の保存と公開	史跡闘鶏山古墳の価値の拡充と活用を見据え、埋葬施設の調査に着手する。未盗掘墳とその調査が有する意義を広く普及し、我が国初の保存・活用法を提示する。		●		拡充	→		
I-2-7	34)	史跡における保存活用計画の策定	今城塚古墳の保存活用計画を策定し、これからの中づくりに活かす。	○	●		新規	→		
I-2-8	35)	史跡公園の魅力発信	今城塚古墳等の史跡公園の活用を通じて情報発信を進め、更なる魅力向上を図る。	○	○	●	継続	→		

事業番号	措置一覧 番号	事業名	事業内容	取組主体			事業 の 位置 づけ	事業期間		
				市民 ・ 団体	企業	市		短期 (1~2年)	中期 (5年)	長期 (10年)
④他地域との連携										
I-2-9	38)	連携自治体と の旅行プログラムの作成	連携自治体との旅 行プログラムの作 成を推進する。	<input type="radio"/>	<input checked="" type="radio"/>	<input type="radio"/>	拡充			
I-2-10	39)	文化財を核とし た広域連携活 動への参加	講演会や歴史ウォ ーク等、文化財の 魅力発信に向けた 広域連携活動への 参加を推進する。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input checked="" type="radio"/>	継続			

I-3 弥生ストリート

高槻の原点と稻作文化がつなぐムラと村

i) 関連文化財群のストーリー

高槻で最初に稲作がはじまった史跡安満遺跡は、弥生時代ほぼ全期間を通して繁栄した環濠集落です。集落の3要素である居住域・生産域・墓域が把握されている弥生ムラは、全国的にもここ安満だけです。稲作技術を携えた人々が縄文人と出会い、共生する中で弥生文化が花開き、ムラから「クニ」へ、さらに古墳時代への展開までも見通せる遺跡であり、いわば高槻市民第1号が根付いた地といえます。

安満遺跡では、史跡の保存・活用と市民の憩いや潤いの場の融合を目指して、「市民とともに育て続ける」安満遺跡公園を整備しました。弥生時代の暮らしを知り歴史の重層性に気づく展示館・体験館や、古代米栽培を体感できる体験水田も活動を始めています。

周辺には、安満ムラのリーダーが葬られた安満宮山古墳や、安満ムラと関係が深い弥生ムラが点在しています。また弥生時代以来、稲作に欠かせない水のマツリは、かたちを変えながら後世に引き継がれ、磐手杜神社の神輿渡御神事や成合春日神社の雨乞祭事に息づいています。そこで、稲作でつながる安満遺跡を中心とした空間的なまとまりを「弥生ストリート」として位置づけるものです。

ii) 構成する文化資源

●文化財

指定文化財	未指定の文化財など
【国指定】 安満遺跡 安満宮山古墳出土品：銅鏡5面、鉄製品9点、ガラス小玉一括附苧麻布片2点（今城塚古代歴史館保管）	安満遺跡公園歴史拠点施設 安満遺跡出土品（埋文センター保管） 成合遺跡とその出土品（埋文センター保管） 古曾部・芝谷遺跡とその出土品（埋文センター保管） 天神山遺跡とその出土品（埋文センター保管） 梶原西遺跡・梶原南遺跡とその出土品（埋文センター保管） 神内遺跡とその出土品（埋文センター保管） 復元整備された「青龍三年の丘 安満宮山古墳」 安満山古墳群とその出土品（埋文センター保管） 金龍寺への参詣道、丁石、境内、堂跡 磐手杜神社の境内、社殿他、お旅所 成合春日神社の境内、社殿 古曾部日吉神社の参道、境内、社殿
【市指定】 磐手杜神社の神輿渡御神事 大般若経600巻 附応永年紀経櫃（成合春日神社、しろあと歴史館保管） 成合春日神社伝来馬具（〃） 成合春日神社の雨乞祭具一式（〃）	

※現時点で該当するものを記載しています。今後追加していく可能性があります。

●文化財公開等拠点施設

安満遺跡公園歴史拠点、今城塚古代歴史館、しろあと歴史館



史跡安満遺跡（安満遺跡公園）



北摂型広口壺（安満遺跡）

<構成文化資源の位置>



地図上の文化財に所在するもの
<成合春日神社> 【市有形】大般若経600巻 附應永年紀経櫃 〃 成合春日神社伝来馬具 【市有民】成合春日神社雨乞祭具一式
<磐手杜神社> 【市無民】磐手杜神社 神輿渡御神事

- …主な文化財
- …文化財公開等拠点施設



安満・磐手杜神社の神輿渡御神事
(市指定文化財)



成合春日神社の雨乞祭具
(成合春日神社蔵、市有民)



復元整備した青龍三年の丘・安満宮山古墳



安満宮山古墳出土の
ガラス小玉
(重要文化財)

安満宮山古墳出土の
「青龍三年」方格規矩四神鏡(上)
三角縁獸文帶四神四獸鏡(下)
(重要文化財)



iii) 保存・活用の課題・方針・措置

●保存・活用の課題

安満遺跡の魅力と価値の源泉とも言える、米作りをテーマとした体験・学習プログラムの充実が期待されます。一方で、周辺では米作りに関連した祭礼・文化財が保存されていますが、保存を担ってきた地域住民の高齢化等により、後継者・担い手不足が懸念されています。

古曾部・芝谷遺跡、天神山遺跡等の周辺遺跡については、遺跡の存在、調査成果とその価値の周知を図ることが必要です。

安満宮山古墳を築造当初の姿に復元した「青龍三年の丘」の施設更新を進めることができます。

●取組方針

安満遺跡については、安満遺跡公園でのイベントを通じ、史跡と一体化したこの公園の価値や魅力を全国へ発信していきます。そして史跡内の公開発掘調査を計画的に行うとともに、その本質的価値や背景についての情報を蓄積していきます。

安満遺跡周辺の神社等での米作りに関連した祭礼や、民俗文化財の保存・継承に向けては、調査研究の継続による記録等を十分に行うとともに、地域住民等による担い手の育成や、次世代への継承活動の促進を図ります。

また「青龍三年の丘 安満宮山古墳」については、施設更新を適切に行っていくとともに、古曾部・芝谷遺跡、天神山遺跡等の周辺遺跡も含めて、遺跡の存在や調査成果、価値をPRしていきます。

これらの取組を通じて、本市のまちづくりの原点としての稲作文化を伝える文化資源を有機的につなぎだ「弥生ストリート」を形成し、回遊や交流を促進する歴史回廊の実現を図ります。

●保存・活用に関する措置

方針2 文化資源を大切に守る

<具体的な措置> 取組主体の凡例…●中心となって取組む ○協力して取組む

措置一覧番号…参考資料1 保存と活用に関する措置 (p120~127) の表番号との対応

事業番号	措置一覧番号	事業名	事業内容	取組主体			事業の位置づけ	事業期間		
				市民・団体	企業	市		短期(1~2年)	中期(5年)	長期(10年)
① 指定・登録等										
I-3-1	9)	安満遺跡の調査研究	安満遺跡の保存と活用を進めるため、史跡の価値について、引き続き調査研究を進める。	○	●		継続			
I-3-2	10)	三島古墳群の調査研究	三島古墳群の保存と活用を進めるため、構成文化財について調査研究を進める。	○	●		新規			
② 適切な保存・公開										
I-3-3	14)	史跡公園等の管理ルールの設定、適用、及び一体的な維持管理	安満遺跡公園の指定管理者と連携し、文化財課所管の公有地と整合する運用を図る。	○	●		継続			

事業番号	措置一覧番号	事業名	事業内容	取組主体			事業の位置づけ	事業期間		
				市民・団体	企業	市		短期(1~2年)	中期(5年)	長期(10年)
I-3-4	16)	安満宮山古墳の適切な保存管理	安満宮山古墳の適切な保存・公開環境を確保する。			●	継続			

方針3 文化資源を地域に活かす

<具体的な措置> 取組主体の凡例…●中心となって取組む ○協力して取組む

措置一覧番号…参考資料1 保存と活用に関する措置(p120~127)の表番号との対応

事業番号	措置一覧番号	事業名	事業内容	取組主体			事業の位置づけ	事業期間		
				市民・団体	企業	市		短期(1~2年)	中期(5年)	長期(10年)
②価値や魅力の発信										
I-3-5	34)	史跡における保存活用計画の策定	安満遺跡の保存活用計画を策定し、これからまちづくりに活かす。		○	●	新規			
I-3-6	35)	史跡公園の魅力発信	安満遺跡公園の活用を通じて情報発信を進め、更なる魅力向上を図る。 また史跡の本質的価値の追求と情報発信を視点に公開発掘調査やシンポジウム等に取り組む。	○	○	●	継続			
④他地域との連携										
I-3-7	38)	連携自治体との旅行プログラムの作成	連携自治体との旅行プログラムの作成を推進する。		○	●	拡充			
I-3-8	39)	文化財を核とした広域連携活動への参加	講演会や歴史ウォーク等、文化財の魅力発信に向けた広域連携活動への参加を推進する。	○	○	●	継続			
⑤歴史を活かしたまちなみ形成										
I-3-9	40)	歴史的建造物の保存・活用	社寺等の歴史的建造物の保存・活用を促進する。	●	●	○	新規			

II-1 富田 寺内町と町衆の文化が華開いた酒どころ

i) 関連文化財群のストーリー

戦国時代の富田には、蓮如の布教を端緒として北摂を代表する寺内町が成立しました。数ある寺の中でも普門寺は、摂津守護を務めた細川家の宗家・京兆家当主の細川晴元が晩年を過ごしたほか、足利義栄が室町幕府14代将軍に就任したなど、武家との関わりが深い禅宗寺院です。現在の方丈や枯山水庭園は江戸時代初期に龍溪が再興したとされます。龍溪は後水尾法皇の信頼厚く、中国僧・隱元を普門寺に招き宇治の黄檗山萬福寺開山に尽力したほか、慶瑞寺を再興したと伝わります。

江戸時代の富田は大半が幕府領となり、商業活動を中心とした在郷町として経済的に発展しました。中でも良質の米と伏流水という富田台地の恵みを活かした酒造業が盛んで、最盛期には24軒の造り酒屋がありました。酒造業で財をなした清水家(紅屋)をはじめとする町衆は、経済力を背景に文人学者を招きいわば文化サロンが出現。漢詩人の入江若水や書家の藤田友閑ら、酒造家の一族出身の文化人を輩出しました。現在も残る町家や寺院等のまちなみ、息づく伝統産業から、当時の町衆文化の繁栄がしのばれるエリアを関連文化財群「富田」と位置づけます。

ii) 構成する文化資源

●文化財

指定等文化財	未指定の文化財など
【国指定】 普門寺方丈附棟札 菩薩坐像(慶瑞寺) 普門寺庭園	富田台地を沃野に変えた五社水路(五社の水) 蓮如が創建し寺内町の起こりとなった教行寺 普門寺に建つ伝細川晴元宝篋印塔 普門寺方丈の狩野安信筆襖絵 清蓮寺の入江若水墓と寺に伝来する藤田友閑の仏画 街区及び町家 台地の地形と筒井池等の溜池がなす景観 個人所有の文化財(清水家文書等)
【国登録】 行信教校 講堂・専精会館	黄檗宗関連文化財 慶瑞寺の山門、境内、諸堂 清蓮寺の境内、本堂 壽酒造・清鶴酒造の酒造関連施設 大坂街道の道標 蓮如上人腰掛石 富田出身の昭和時代を代表するジャーナリスト、大宅壯一顕彰碑
【市指定】 本照寺(本堂、山門附石橋、東門、鐘楼) 三輪神社(社殿附棟札2枚・奉加帳序1巻、絵馬所、末社春日社附玉垣) 富田村文禄検地帳(しろあと歴史館保管) 富田村延宝検地帳(しろあと歴史館保管)	

※現時点で該当するものを記載しています。今後追加していく可能性があります。

●文化財公開等拠点施設

しろあと歴史館



普門寺の方丈（国重文）



普門寺の枯山水庭園（国名勝）



細川晴元の墓とされる宝篋印塔

<構成文化資源の位置>



蓮如上人腰掛石



本照寺本堂（市有形）



慶瑞寺の菩薩坐像（重文）



富田の酒蔵（左：壽酒造、右：清鶴酒造）

iii) 保存・活用の課題・方針・措置

●保存・活用の課題

町家等の歴史的な町並みや、社寺等歴史的建造物や美術工芸品、民俗文化財等が残されている一方で、これら文化資源の状況が十分に把握されておらず、将来に渡る保存や継承に懸念があります。歴史的な町並みについては、一部で景観整備等が行われているものの、連続性・統一感があり、より歴史性を感じられる空間形成を目指した取組が求められます。

また、社寺や町家、溜め池・水路等の遺構、富田の発展を支えてきた人物や酒造り等の産業、生活文化といった、文化資源のストーリーを楽しむ仕掛け・コンテンツは不足しており、今後充実を図ることが必要です。

●取組方針

富田に残る、町家等の歴史的建造物や美術工芸品、民俗文化財等の状況把握に努め、保存・活用に向けて基礎となる情報の蓄積を図ります。また、建造物の外構・外観等の規制・誘導等により、江戸時代以来の町の風情を感じられる空間づくりを進めます。

寺内町・在郷町など複数の町場を核として発展してきた富田の歴史に鑑み、関心を得やすい戦国時代の歴史や歴史上の人物を活用してPRを展開し、集客につなげていきます。

酒造り等産業との連携等、観光コンテンツの充実により、富田に伝わる文化資源のストーリーを楽しむことのできる環境づくりを推進します。

●保存・活用に関する措置

方針1 文化財を掘り起こす

<具体的な措置> 取組主体の凡例…●中心となって取組む ○協力して取組む

措置一覧番号…参考資料1 保存と活用に関する措置 (p120～127) の表番号との対応

事業番号	措置一覧番号	事業名	事業内容	取組主体			事業の位置づけ	事業期間		
				市民・団体	企業	市		短期(1～2年)	中期(5年)	長期(10年)
① 継続した調査・研究										
II-1-1	3)	重点的に取り組む文化財調査	ゾーンVにおける建造物、民俗文化財、美術工芸品(絵画・彫刻等)の調査を拡充する。	○		●	拡充	→		

方針3 文化資源を地域に活かす

<具体的な措置> 取組主体の凡例…●中心となって取組む ○協力して取組む

措置一覧番号…参考資料1 保存と活用に関する措置 (p120~127) の表番号との対応

事業番号	措置一覧番号	事業名	事業内容	取組主体			事業の位置づけ	事業期間		
				市民団体	企業	市		短期(1~2年)	中期(5年)	長期(10年)
④ 他地域との連携										
II-1-2	38)	連携自治体との旅行プログラムの作成	連携自治体との旅行プログラムの作成を推進する。		○	●	拡充			
II-1-3	39)	文化財を核とした広域連携活動への参加	講演会や歴史ウォーク等、文化財の魅力発信に向けた広域連携活動への参加を推進する。	○	○	●	継続			
⑥ 歴史を活かしたまちなみ形成										
II-1-4	40)	歴史的建造物の保存・活用	富田に残る町家や古民家、近代建築、産業遺産等の歴史的建造物の保存・活用を促進する。	●	●	○	新規			
II-1-5	41)	町家などの文化資源の調査・情報発信	市民団体や地域住民による、富田に残る町家などの文化資源の保存・活用に向けた調査を基にした情報発信等を促進する。	●	○	○	継続			
II-1-6	46)	富田のまちなみ景観整備	富田まちなみ環境整備事業を実施するとともに、在郷町として発展した富田らしい歴史と趣のあるまちなみの創出を支援する。	○	○	●	継続			

II-2 淀川

悠久の流れに育まれた水運と流域の暮らし

i) 関連文化財群のストーリー

山城盆地の水を集めて大阪湾へ注ぐ淀川は、古来東西交流の要であり、流域に豊かな歴史と文化をもたらした「母なる川」です。流域は近畿2府4県にまたがり、本州の河川第5位の面積を誇ります。

江戸時代には、かつて数百を数えた関所が廃止されて舟運が整備され、柱本・唐崎・前島などに河港が成立、物流の拠点となりました。唐崎浜はもっぱら荷船の河港として賑わいました。三島江浜・前島浜は京大坂を結ぶ旅客船・三十石船の船着き場で、本山寺や神峯山寺への参詣客をはじめ多くの旅人が往来しました。また前島浜は、成合を経て北部山間と結ばれ、高槻城下の前島口へは直線道路が通じています。荷揚げに失敗し沈んだ高槻城の「残念石」も見つかっています。柱本は、三十石船の乗客相手に飲食物を商った「くらわんか舟」の拠点となり、大塚には「淀川三十石船舟唄」が伝わります。また、鶴殿のヨシは古来和楽器・簞篋の吹き口として珍重され、ヨシズ生産も盛んでした。品質のよいヨシを育てる「鶴殿のヨシ原焼き」は、ヨシ原の景観保全につながっています。

流域に恵みをもたらす一方で、淀川は後背地を湿地化し度々の洪水で人々を苦しめました。そのため底掘や排水路掘削、本流築堤など治水の努力が絶え間なく続けられました。

大河に育まれた暮らしと治水の営みを伝えるこのエリアを、関連文化財群「淀川」と位置付けます。

ii) 構成する文化資源

●文化財

指定文化財	未指定の文化財など
【府指定】 淀川三十石船舟唄	淀川の川床遺跡(鶴殿遺跡・前島遺跡等) 九州とのつながりを示す筑紫津神社 都人が豊かな農村とイメージした玉川の里と卯の花 淀川の鎮守と社伝が伝える三島鴨神社 前島で発見された高槻城残念石(現しろあと歴史館保管) 番田の大樋と番田井路 低湿地での交通手段・井路舟 くらわんか舟発祥地の碑 淀川採集のくらわんか茶碗(現しろあと歴史館保管) 河港・三島江浜跡と石燈籠や参詣道の道標等石造物 河港・唐崎過書浜跡 唐崎や上牧に残る洪水対策の段倉 大塚切れと修堤を伝える淀川洪水記念碑 淀川修堤工事に活躍したトロッコ列車の橋脚 淀川の築堤修堤記念碑 本澄寺の境内、建造物 ヨシ原保全の年中行事・鶴殿のヨシ焼き
【市指定】 葉間家文書(しろあと歴史館保管)	

※現時点で該当するものを記載しています。今後追加していく可能性があります。

●文化財公開等拠点施設

しろあと歴史館



「くらわんか茶碗」(しろあと歴史館蔵)



大塚保存会による「淀川三十石船舟唄」実演

<構成文化資源の位置>



大塚の洪水記念碑



三島江浜の妙見灯籠と道標



卯の花が咲き乱れる玉川の里



江戸時代の河港の様子(『淀川両岸一覧』の前島浜)



前島浜で発見した「高槻城残念石」(しろあと歴史館保管)

iii) 保存・活用の課題・方針・措置

●保存・活用の課題

淀川の川床遺跡や治水のための水路、社寺や石造物等の遺構が残されていますが、現状について十分な把握が行われておらず、将来に向けての保存には懸念があります。また、淀川三十石船船唄や祭礼等の有形無形の文化財が、地域住民による保存会等の活動により保存継承されてきましたが、高齢化等により後継者や担い手不足への対応が必要となっています。

鵜殿のヨシ原では、淀川の水位低下やカナムグラなどのツル草の繁茂により生育が阻害され、ヨシ群落が年々減少していることを受け、水路を掘削しヨシ生育を図る再生プロジェクトが進んでおり、今後もヨシ原の保全を継続していくことが重要です。

●取組方針

淀川に残してきた社寺等の歴史的建造物や石造物等の遺構に加え、地域で保存されている民俗文化財の状況について把握に努め、保存に向けた取組の基礎となる情報の蓄積を図ります。

淀川三十石船船唄をはじめとした地域住民による保存継承の取り組みに対しては、保存会への支援を中心に進め、次世代への継承を促進します。

鵜殿のヨシ原については、地域の保全団体による活動の継続を今後も促進していきます。

また、淀川を介して他地域との交流やつながりが深い歴史に鑑み、地域史の掘り起こしと P R を展開します。

●保存・活用に関する措置

方針1 文化財を掘り起こす

<具体的な措置> 取組主体の凡例…●中心となって取組む ○協力して取組む

措置一覧番号…参考資料1 保存と活用に関する措置 (p120～127) の表番号との対応

事業番号	措置一覧番号	事業名	事業内容	取組主体			事業の位置づけ	事業期間		
				市民団体	企業	市		短期(1~2年)	中期(5年)	長期(10年)
① 継続した調査・研究										
II-2-1	3)	重点的に取り組む文化財調査	ゾーンVIにおける淀川縁の集落や社寺を対象に、建造物、民俗文化財、美術工芸品(絵画・彫刻等)の調査を拡充する。	○		●	拡充	→		

方針2 文化資源を大切に守る

<具体的な措置> 取組主体の凡例…●中心となって取組む ○協力して取組む

措置一覧番号…参考資料1 保存と活用に関する措置 (p120~127) の表番号との対応

事業番号	措置一覧番号	事業名	事業内容	取組主体			事業の位置づけ	事業期間		
				市民 団体	企業	市		短期 (1~2年)	中期 (5年)	長期 (10年)
④次世代への継承										
II-2-2	23)	鵜殿のヨシの保全	鵜殿のヨシの保全団体の活動に対する報償金制度や、市職員によるヨシ原焼き当日の現場警備・交通整理等の支援を継続していく。	●	○	●	継続	→		

方針3 文化資源を地域に活かす

<具体的な措置> 取組主体の凡例…●中心となって取組む ○協力して取組む

措置一覧番号…参考資料1 保存と活用に関する措置 (p120~127) の表番号との対応

事業番号	措置一覧番号	事業名	事業内容	取組主体			事業の位置づけ	事業期間		
				市民 団体	企業	市		短期 (1~2年)	中期 (5年)	長期 (10年)
⑤歴史を活かしたまちなみ形成										
II-2-3	40)	歴史的建造物の保存・活用	古民家、近代建築等の歴史的建造物の保存・活用を促進する。	●	●	○	新規	→		

II-3 西国街道 都と西国をつなぐ大動脈と歴史絵巻

i) 関連文化財群のストーリー

西国街道は、宮都と九州大宰府を結んだ官道・古代山陽道にはじまります。神内の神奈備山を目印に淀川を渡った山陽道は、ふもとの大原駅から一直線に西を目指します。この道を遠国へ向かう都の役人や貴族、税や貢納品を運ぶ人びとが行き交い、都の文物や文化が市域にもたらされました。荷車の轍や牛の足あと、マグワが見つかった上田部遺跡は、当時の先進農村のひとつです。歌枕の地が点在し、極楽浄土を想う日想観の金龍寺が都人の信仰を集め、歌人能因法師が古曾部に住んだのも、都に直結する山陽道あってのことでした。

戦国時代には、織田信長や羽柴(豊臣)秀吉をはじめ、多くの軍勢が往来しました。特に秀吉は、信長亡き後の天下の去就を左右する明智光秀との山崎合戦にあたり、「中国大返し」を敢行し上宮天満宮前の「天神の馬場」に陣を据え、大山崎へと軍勢を進めました。江戸時代には脇街道・山崎道として一里塚が整備され、宿駅・芥川宿を参勤交代の大名や旅人が盛んに利用しました。幕末には再び長州藩らの軍勢が利用し、京都に風雲急を告げる事態をもたらしています。

このように古代以来都と西国をつなぐ大動脈であり、様々な歴史絵巻の舞台となったこの道を、関連文化財群「西国街道」と位置付けます。

ii) 構成する文化資源

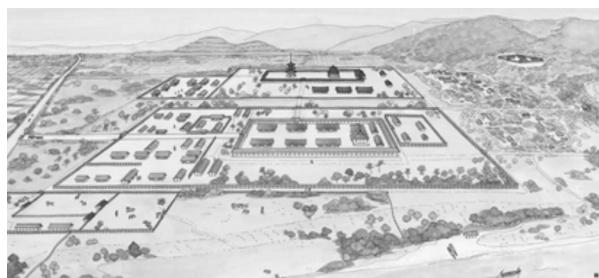
●文化財

指定文化財	未指定の文化財など
【国指定】 石川年足墓誌（大阪歴史博物館保管） 石造灯籠（上宮天満宮） 嶋上郡衙跡附寺跡	律令役人が住んだ村・郡家今城遺跡とその出土品 山陽道の目印神南備の森と大原駅（梶原南遺跡）とその出土品 奈良東大寺の瓦を焼いた梶原瓦窯跡とその出土品 今昔物語にも登場する梶原寺と推定地・畑山神社とその出土品 三島を統べた豪族の氏神か、阿久刀神社 全国2番目に古い天満宮・上宮天満宮【再掲】 大イチョウが目印、安満の淨誓寺 「鍋かぶり」日親上人建立と伝える一乗寺 平安歌人・伊勢晩年の地に建つという伊勢寺の伊勢廟堂と亀趺碑 旧芥川宿西詰めの愛宕燈籠・金毘羅燈籠・水門跡 社寺への参詣道を示す道標類 市域2つ目の一里塚、梶原一里塚跡
【府指定】 多臂觀世音菩薩立像（廣智寺） 石槽（教宗寺） 西国街道芥川一里塚	真上の古刹慈願寺・地蔵院 瘡を治す靈験があるとされた笠森神社 古曾部焼き窯元・古曾部窯跡 京都防衛のため幕末に築かれた梶原台場・妙淨寺
【市指定】 清福寺太子堂 薬師如来坐像（山手町薬師堂） 芥川宿絵図 芥川村文禄檢地帳（しろあと歴史館保管） 磐手社神社の神輿渡御神事 伝能因法師墳 附文塚、不老水、花の井	

※現時点で該当するものを記載しています。今後追加していく可能性があります。

●文化財公開等拠点施設

しろあと歴史館、今城塚古代歴史館

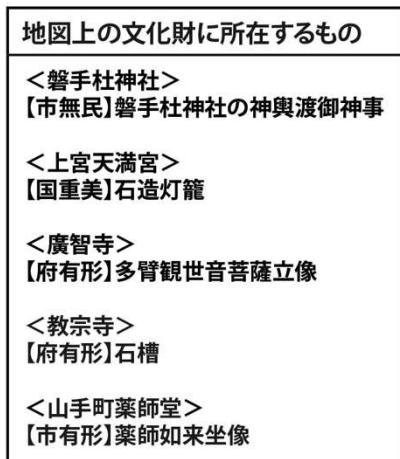


嶋上郡衙跡と郡寺の想像イラスト(早川和子氏画)



嶋上郡衙跡仮整備地

＜構成文化資源の位置＞



西国街道の旧芥川宿の町並み



清福寺太子堂（市有形）



旧芥川宿の教宗寺



旧芥川宿の一里塚（府中跡）

iii) 保存・活用の課題・方針・措置

●保存・活用の課題

西国街道沿いには、町家等の古民家が点在して残っており、保存・活用が期待されます。

また、古代の郡役所跡である嶋上郡衙跡については、民有地が過半を占めるため、保存整備に向けた公有化の完了が望まれます。

嶋上郡衙跡・芥川廃寺、梶原寺跡・梶原南遺跡等、古代山陽道・西国街道を構成する重要な遺跡や遺構、社寺等は、歴史的背景について不明な点が多く残されており、実態解明が望まれています。

●取組方針

西国街道沿いに残る古民家等の歴史的建造物や民俗文化財等の状況把握に努め、保存・活用に向けた基礎となる情報の蓄積を図ります。

嶋上郡衙跡については、保存整備、活用に向けた公有化の継続と保存活用計画の策定を進めます。

また、西国街道沿いの地域史の掘り起こしに努め、歴史ストーリーのPRを展開するとともに、観光ルートの設定と来訪拠点となる古民家等の活用を推進します。

●保存・活用に関する措置

方針1 文化財を掘り起こす

<具体的な措置> 取組主体の凡例…●中心となって取組む ○協力して取組む

措置一覧番号…参考資料1 保存と活用に関する措置(p120~127)の表番号との対応

事業番号	措置一覧番号	事業名	事業内容	取組主体			事業の位置づけ	事業期間		
				市民・団体	企業	市		短期(1~2年)	中期(5年)	長期(10年)
① 繼続した調査・研究										
II-3-1	3)	重点的に取り組む文化財調査	ゾーンⅡ～Ⅳ、ゾーンⅥにおける西国街道沿いの集落や寺社を念頭に置いた建造物、民俗文化財、美術工芸品(絵画・彫刻等)の調査を拡充する。	○		●	拡充			→

方針3 文化資源を地域に活かす

<具体的な措置> 取組主体の凡例…●中心となって取組む ○協力して取組む

措置一覧番号…参考資料1 保存と活用に関する措置(p120~127)の表番号との対応

事業番号	措置一覧番号	事業名	事業内容	取組主体			事業の位置づけ	事業期間		
				市民・団体	企業	市		短期(1~2年)	中期(5年)	長期(10年)
② 価値や魅力の発信										
II-3-2	34)	史跡における保存活用計画の策定	公有化途上にある嶋上郡衙跡附寺跡の保存活用計画を策定し、これからのまちづくりに活かす。		○	●	新規			→

事業番号	措置一覧番号	事業名	事業内容	取組主体			事業の位置づけ	事業期間		
				市民・団体	企業	市		短期 (1~2年)	中期 (5年)	長期 (10年)
II-3-3	35)	史跡公園の魅力発信	鳴上郡衙跡附寺跡の史跡としての活用を図り、情報発信を進めて更なる魅力向上を図る。	○	○	●	継続			

④ 他地域との連携

II-3-4	38)	連携自治体との旅行プログラムの作成	連携自治体との旅行プログラムの作成を推進する。		○	●	拡充			
II-3-5	39)	文化財を核とした広域連携活動への参加	講演会や歴史ウォーク等、文化財の魅力発信に向けた広域連携活動への参加を推進する。	○	○	●	継続			

⑤ 歴史を活かしたまちなみ形成

II-3-6	40)	歴史的建造物の保存・活用	西国街道沿いの古民家や社寺等の歴史的建造物のユニークベニュー等、保存・活用を促進する。	●	●	○	新規			
II-3-7	41)	古民家などの文化資源の調査・情報発信	市民団体や地域住民による、西国街道沿いの古民家などの文化資源の保存・活用に向けた調査を基にした情報発信等を促進する。	●	○	○	継続			

II-4 北摂山地と靈場 山々への信仰を支えた里の暮らしと交易

i) 関連文化財群のストーリー

古来、山々は神々が座す地として崇敬され、畏怖を持つつ信仰者たちが靈場を開拓しました。北摂山地には、平安京を守る近畿地方の代表的な七つの靈山「七高山」の一つ「神峯山」が存在するとされ、修驗道などの山岳信仰が興隆するなかで山岳寺院が開かれます。これらの靈場・寺院は、山里の人びとによって支えられ、都人の信仰を集め、平安仏などの貴重な文化財や祭礼行事が数多く伝来しています。

江戸時代、商いの神様として信仰された毘沙門天を本尊とする神峯山寺や本山寺には、大坂市中など遠方からも参詣者が訪れ、米商人は勧請掛けの長さで堂島の米相場を占ったといいます。

山地をめぐる街道が貫く原盆地では、淀川の前島浜とつながり物流ルートが確保され、冬場の寒気を活かして海外へも輸出された寒天製造が盛んでした。また木炭製造も山間を支えた重要な産業です。

このように山岳寺院と山間部の風土、暮らしを伝える空間的なまとまりを関連文化財群「北摂山地と靈場」と位置付けます。

ii) 構成する文化資源

●文化財

指定文化財	未指定の文化財など
【国指定】 聖観音立像2躯、阿弥陀如来坐像(神峯山寺) 聖観音立像(本山寺、奈良国立博物館保管)、毘沙門天立像(本山寺) 千手觀音坐像(安岡寺)	廃仏毀釈後も地元が守る櫻船神社と田能神宮寺 山中にたたずむ杉生妙樂寺や二料毘沙門堂 妙樂寺の平安仏・十一面觀音菩薩立像 一休禪師が開創した戸陀寺跡 本山寺の参道、境内、諸堂
【国登録】 古畠家住宅	本山寺の平安仏・大日如來坐像 神峯山寺の参道、境内、諸堂 自然石の不動明王を本尊とする靈山寺 安岡寺の参道、境内、諸堂
【府指定】 石造宝篋印塔(本山寺) 石槽(八阪神社) 出灰素盞鳴神社のカツラ	山道の物流を担った牛をねぎらう京坂越えの牛地蔵 妙見山や穴太寺など、靈場への道標 寒天製造をふるさとの高槻へ伝えた宮田半平顕彰碑 寒天関連資料・寒天唄 造り酒屋・旧大西家住宅を活用した二料山荘 原盆地の美しい情景「原八景」
【市指定】 大日如來坐像、聖觀音菩薩立像(田能神宮寺) 不動明王立像(本山寺) 十一面觀音菩薩立像、地蔵菩薩立像(神峯山寺) 八阪神社の春祭歩射神事	

※現時点で該当するものを記載しています。今後追加していく可能性があります。

●文化財公開等拠点施設

しろあと歴史館



神峯山寺の山門と聖觀音立像2躯(国重文)



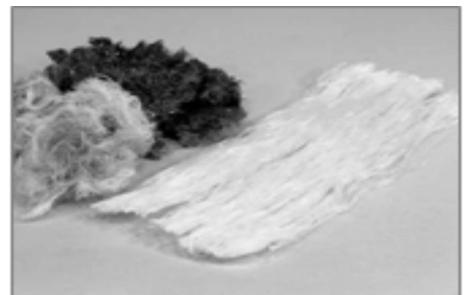
<構成文化資源の位置>

地図上の文化財に所在するもの	
<田能神宮寺>	【市有形】大日如来坐像 〃 聖觀音菩薩立像
<本山寺>	【国重文】毘沙門天立像 〃 聖觀音立像 【府有形】石造宝筐印塔 【市有形】不動明王立像
<神峯山寺>	【国重文】聖觀音立像2軀 〃 阿彌陀如來坐像 【市有形】十一面觀音菩薩立像 〃 地藏菩薩立像
<八阪神社>	【府有形】石槽 【市無民】八阪神社の春祭歩射神事
<安岡寺>	【国重文】千手觀音坐像

- …主な文化財
- …文化財公開等拠点施設



山村景観を構成する古畠家住宅（国登録）



寒天の原料「テングサ」と糸寒天



本山寺の毘沙門天立像(国重文)



安岡寺の千手觀音坐像(国重文)



原の牛地蔵

iii) 保存・活用の課題・方針・措置

●保存・活用の課題

構成文化財の多くが、山岳地域の社寺に伝来する有形・無形の文化財のため、過疎化の進行に伴い担い手が減少し、建造物の修理や祭礼の継続など、文化財の将来に渡っての保存に懸念が生じています。特に、地域住民が保存の中心を担っていた祭礼については、継承が困難になりつつあります。

また、北摂山地では寒天や木炭製造などの伝統的産業が営まれてきましたが、近代的工場生産との競争や地球温暖化、高齢化の影響により、厳しい状況にあります。

新緑と紅葉シーズンには、社寺への観光客が増加しますが、それによる周辺集落等の住環境への影響が懸念されています。

●取組方針

この地域の歴史文化を特徴づけている仏像や民俗文化財等の状況把握に努め、文化財の保存・活用の基礎となる情報の蓄積を図ります。

特に、社寺等の建造物・美術品といった有形文化財が多く集積していることから、現状の調査と防災・防犯も含めた保存継承に向けた取り組みを推進します。また、地域に伝わる生活文化や習俗、祭礼等の継承を促進します。

社寺を核とした周遊ルートの設定により、自然や住環境の保全と調和した観光誘導を図ります。

●保存・活用に関する措置

方針1 文化財を掘り起こす

<具体的な措置> 取組主体の凡例…●中心となって取組む ○協力して取組む

措置一覧番号…参考資料1 保存と活用に関する措置 (p120~127) の表番号との対応

事業番号	措置一覧番号	事業名	事業内容	取組主体			事業の位置づけ	事業期間		
				市民・団体	企業	市		短期(1~2年)	中期(5年)	長期(10年)
① 繼続した調査・研究										
II-4-1	3)	重点的に取り組む文化財調査	ゾーンI、ゾーンIIIにおける山間部の集落や寺社を念頭に置いた建造物、民俗文化財、美術工芸品(絵画・彫刻等)の調査を拡充する。	○	●		拡充			→

方針3 文化資源を地域に活かす

<具体的な措置> 取組主体の凡例…●中心となって取組む ○協力して取組む

措置一覧番号…参考資料1 保存と活用に関する措置 (p120~127) の表番号との対応

事業番号	措置一覧番号	事業名	事業内容	取組主体			事業の位置づけ	事業期間		
				市民・団体	企業	市		短期(1~2年)	中期(5年)	長期(10年)
⑤歴史を活かしたまちなみ形成										
II-4-2	40)	歴史的建造物の保存・活用	古民家、近代建築等の歴史的建造物の保存・活用を促進する。	●	●	○	新規			→

II-5 近代化の歩み

高槻の近代化と学問の発展を見守った象徴

i) 関連文化財群のストーリー

明治を迎えた高槻は、明治9(1876)年の官営鉄道の開設とともに新たな発展を遂げました。一方、明治4(1871)年の廃藩置県、明治7(1874)年の高槻城破却に伴い、城下町は空洞化しました。そこで商業等の振興と町の再興を狙いとして、明治42(1908)年、高槻城跡に陸軍の工兵隊を誘致しました。工兵隊は市内各所で演習を行い、災害救援にも出動しました。架け替えられましたが、「演習橋」の名も残ります。

昭和3(1928)年、新京阪線(現在の阪急京都線)が開通し、電鉄会社が駅前で宅地開発を手がける一方、学校を誘致しました。昭和3(1928)年に京都大学農学部付属農場(現在の安満遺跡公園)が開設され、昭和5(1930)年には大阪高等医学専門学校(現在の大日本医科大学)が大阪市内から移転。さらに昭和9(1934)年には京都大学の阿武山地震観測所が開設されました。これらの大学は、新しい学問の発展の場となり、日本の近代化に貢献するとともに、高槻の顔ともなりました。

大学や住宅街等に点在する近代建築や、近代化と経済成長を支えた鉄道等の土木遺産は、単に近代化遺産にとどまらず、今も現役でその役割を果たしており、本市の近代から現代に至る発展の象徴にもなっています。そこでこれら近代の発展を跡付ける建造物と土木遺産を関連文化財群「近代化のあゆみ」と位置付けます。

ii) 構成する文化資源

●文化財

指定等文化財	未指定の文化財など
<p>【国登録】 大阪医科大学看護専門学校校舎(旧大阪高等医学専門学校別館)：現大阪医科大学歴史資料館 行信教校 講堂棟・專精会館</p>	<p>J R 東海道本線の梶原付近トンネル(ねじりまんぼ) 同芥川鉄橋 旧陸軍工兵第4連隊の營門・哨兵所跡等 高槻陸軍墓地(天神町) 芥川の水防出動で殉職した工兵を悼む殉難碑(芥川堤) 工兵隊の架橋訓練にちなむ前島と成合の演習橋 旧京都大学高槻農場本館ほか3棟 旧京都大学阿武山地震観測所：現京都大学防災研究所地震予知研究センター「阿武山観測所」 旧京大化学研究所本館・大学管理棟(大阪医科大学内) 高槻町・北園町周辺に点在する洋館と電鉄会社が計画した昭和初期の街区</p>

※現時点で該当するものを記載しています。今後追加していく可能性があります。

●文化財公開等拠点施設

安満遺跡公園歴史拠点施設、しろあと歴史館

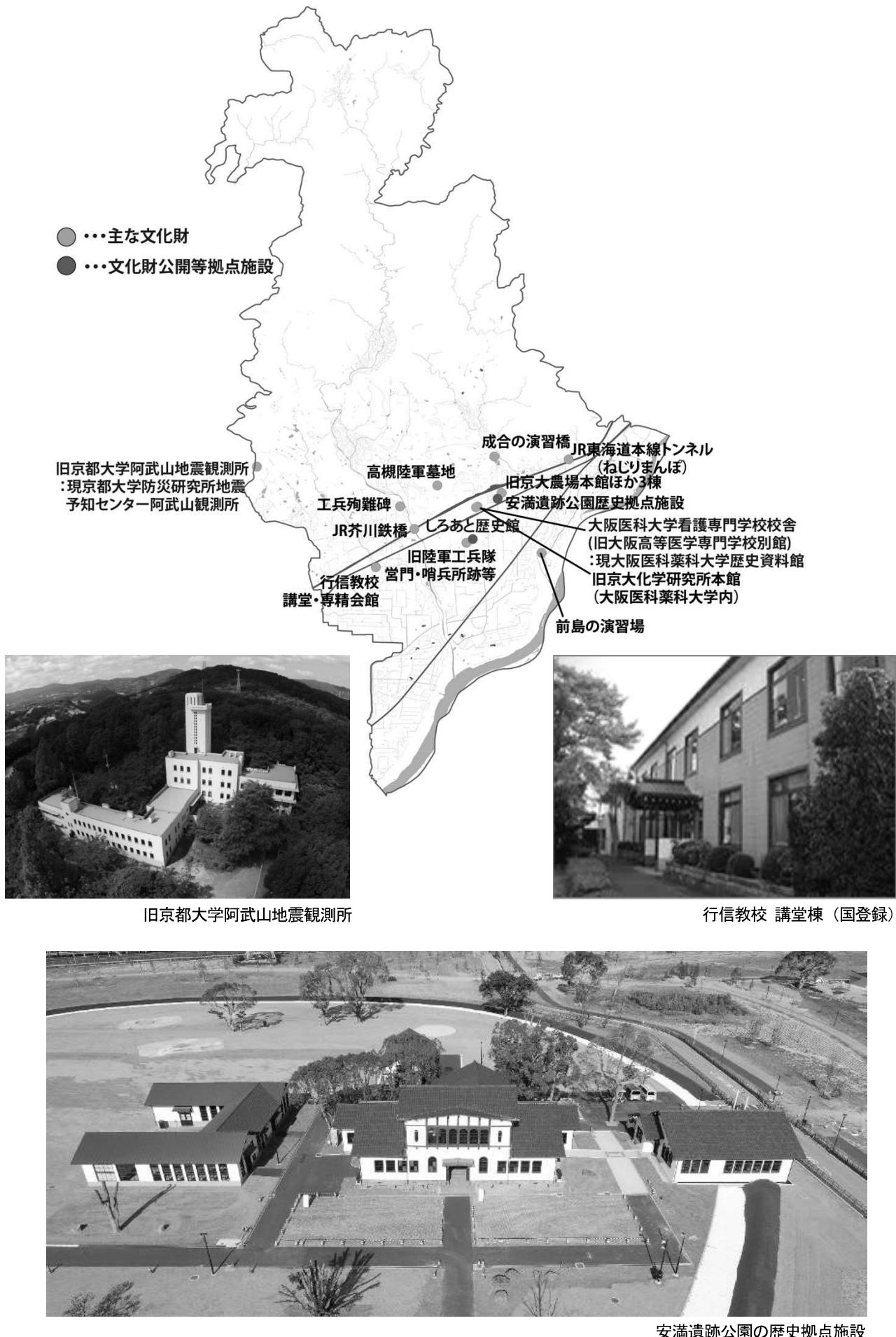


旧陸軍工兵隊營門・哨兵所跡



旧大阪高等医学専門学校校舎（国登録）

<構成文化資源の位置>



iii) 保存・活用の課題・方針・措置

●保存・活用の課題

近代建築や土木遺産は、点在していたり見慣れたインフラであったりするため、市民の認知度は低く、高槻、ひいては日本の近代化に果たした役割はほとんど知られていません。特に、民営電鉄会社が宅地開発した高槻町・北園町周辺は、街区自体が近代化遺産と言えますが、その認識は地域住民等の間でも低くなっています。加えて現在も現役の施設として使用されているため、大半が非公開の状況です。

●取組方針

近代建築や土木遺産等については、所有者・管理者と連携し、定期的な見学会の開催や情報発信などの普及啓発事業を通じて、その存在と歴史的背景、ストーリーをPRし、より多くの人々に近代の文化財の魅力に親しんでもらう機会の増加に努めます。

●保存・活用に関する措置

方針1 文化財を掘り起こす

<具体的な措置> 取組主体の凡例…●中心となって取組む ○協力して取組む

措置一覧番号…参考資料1 保存と活用に関する措置 (p120～127) の表番号との対応

事業番号	措置一覧番号	事業名	事業内容	取組主体			事業の位置づけ	事業期間		
				市民・団体	企業	市		短期(1～2年)	中期(5年)	長期(10年)
① 繼続した調査・研究										
II-5-1	3)	重点的に取り組む文化財調査	ゾーンⅡ～Ⅵにおける近代及び近代化に関わる建造物、民俗文化財、美術工芸品(絵画・彫刻等)等の調査を拡充する。	○		●	拡充	→		

方針3 文化資源を地域に活かす

<具体的な措置> 取組主体の凡例…●中心となって取組む ○協力して取組む

措置一覧番号…参考資料1 保存と活用に関する措置 (p120～127) の表番号との対応

事業番号	措置一覧番号	事業名	事業内容	取組主体			事業の位置づけ	事業期間		
				市民・団体	企業	市		短期(1～2年)	中期(5年)	長期(10年)
② 価値や魅力の発信										
II-5-2	35)	史跡公園の魅力発信	安満遺跡公園内の旧京大農場本館他3棟の活用を通じて、魅力を発信する。	○	○	●	拡充	→		
⑤ 歴史を活かしたまちなみ形成										
II-5-3	40)	歴史的建造物の保存・活用	近代建築等の歴史的建造物の保存・活用を促進する。	●	●	○	新規	→		